

グループ 訪 問

イ草栽培 ～さらなる品質向上に挑戦～



日本農業会議 議員
農協協議会 会長
振興会 会長
杭谷 茂さん

泥中に根茎が横に走り、地上茎を出す。地上茎は葉が退化し、細い円柱状で120センチ位になる。これがイ草。11月には冷たい水田に株分けした苗を植える大変な作業工程だがそれに挑戦し続ける杭谷さんを訪ねた。部屋には、さんざんと輝くトロフィーの山、大臣表彰が2回、知事、生産局長表彰4回を筆頭にトロフィーが40個あまり、全て品質・規格技術共群を抜いた価値ある成果によるもの。『事業を始めたのは昭和30年代の始めだから、50年を迎えた。今思えば昭和50年の始め、乾燥して仕上げたものが、一貫目、3千5百円の値がついた。反当に換算して100万円。その景気が3年続いた。厳しさゆえにやめてゆく人が多

国産品のよさを求めつづけて50年 トロフィーが大きな糧

い中、運もよかった。景気の再来を願ってここまでできたが、今は中国製品の価格には勝てない。孫も大きくなって繁忙期には手伝ってくれる。よりよい品質を求めて試行錯誤の繰り返し、今は自分の足腰に力がきて限界を感じてきた。続けてきたお陰で認められ、今でも明治神宮に成果品を献上させていただいて本当に感謝しています。』と話される。手の凍る冷たい水の中で植え付け、暑い陽ざしの一気の刈り取り、この工程には、たくましく強い身体と強靱な忍耐精神力が伴う。

家族の幸せをいつも夢見て挑戦し続けた50年の歳月。無言の中に、このトロフィーが物語ってくれる気がした。大先輩が歩んでこられた道に頭の下がる思い、もう身体休めてと心に思ったが、みなぎるファイトに言葉は出せなかった。ガンバレのエールを送り訪問を終えた。

編集後記

先日、バスの窓から刈入れの終わった田んぼを何気なく見ていると、突然「わらぼうとう」が目飛び込んできました。

子どもの頃、手伝いでわらを投げ上げたり、洪柿をわらの間に忍ばせ、甘く熟すのを心待ちにしていたことなど、昔をなつかしく思い出しました。悪戯をする親はもちろん近所のおじさん、おばさんにも叱られたものです。人が農村から溢れ、都会へ集団就職するなど、皆が今日より明日が豊かになると信じて活気に満ちていた時代であったように思います。今、日本は物をどんどん生産し人が動きまわる時代から、生産活動だけでなくサービスや情報を求める時代へと変化を遂げてまいりました。こうした時代の変化に対応できるまちづくりはどうあるべきか、執行部にも我々議員にも、今まで以上に新しいアイデアとセンスが求められていると思います。



これぞ、わら“ぼうとう”



輝くトロフィーの数々

この記事を読まれる頃には議会報告会は終えていると思いますが、いただいたご意見をふまえ、議会活動に、また、議会だよりの充実に努めてまいります。

(松浦)



議会を傍聴してみませんか

次回定例会は12月です

無線放送でお知らせします。

議会広報広聴調査
特別委員会

・委員長／小川信晃
・副委員長／仙光保喜
・委員／松本秀治・末盛守
田坂進・松浦敬潤